

特集 埼玉に根を張る

～日本で暮らして見えてきたギニア～



埼玉に暮らす外国出身の方の中には、地域に根を張り、積極的に地域と関わり生活されている方が多くいらっしゃいます。今回は、埼玉に暮らし、日本とギニアの架け橋となるべく活動されている木村さんご家族にお話を伺いました。

トラオレ カンコ マドゥさん、木村 麻衣子さん、木村 トラオレ 一真くん

埼玉に暮らすきっかけは？

(トラオレさん) 私はギニア出身で、1995年に初めて日本へ来ました。その時は専門学校でPC分野を学びギニアへ戻りましたが、2003年に再度来日し、仕事先が川口だったことから埼玉で暮らし始めました。日本に来て、一番困ったことは、やはり日本語ができないことでした。言葉を覚えないと何もできないと痛感し、一生懸命日本語を勉強しました。来日後、兄に買ってもらったポケットサイズの仏和辞典を持ち歩き、電車の中での人々の会話を単語を調べながら内容を推測しつつ、聞いていました。家では、テレビでニュース、CM、アニメをひたすら見て、日本語を覚えました。特に、アニメは簡単な言葉が多く、日本語の勉強にお薦めです。今でも、兄に買ってもらった辞書は大事に使っています。

(麻衣子さん) 私は、もともとアフリカのファッションや音楽が好きで、「ブレイズ」と呼ばれる細い三つ編みをたくさん編み込んだ髪型をしていました。勤め先に来ていたギニア人夫婦に「その髪型はどこでしているの？」と聞かれ、美容室でやってもらっていると答えると、家でしてあげるからおいでと誘われました。そのご夫婦のつながりで、夫と知り合いました。

(トラオレさん) 今、家族3人で埼玉に暮らしています。関東に暮らすギニア人やその家族で年3回ほど集まり、バーベキューなどをし、交流しています。毎回50人、多い時は100人くらい集まります。このコミュニティでは、病気や怪我など困ったことがあると、みんなで助け合っています。

ギニアの現状を知り・・・

(麻衣子さん) 夫の実家は首都から車で12時間かかるキシドゥグ県にあります。エボラ出血熱は終息したとはいえ、水不足、生活環境の不衛生な状況は続いています。そこで、おにぎりを作ることで、食糧支援とあわせて手洗いの大切さを伝えたいと考え、クラウドファンディングで寄付を募り、日本企業さんにハンドソープと焼きのりを提供してもらい、おにぎり作りを現地の子ども達と行いました。子どもたちは、おにぎりをもろうために列を作り、一人が家族の分までもらいに何度も並び、列はなかなか短くなりませんでした。

(トラオレさん) 学校、先生の数も絶対数が不足していて、そのうえ、机やイスなどの備品も足りず、二人掛けの机に3、4人が座っています。ぎゅうぎゅうで授業を受けるので、ギニアの子どもたちは字が汚いです。また、午前と午後に分かれているのに、それでも入りきらず、遅く来ると席がなく授業が受けられないこともあります。トイレは扉がないので、女の子は3、4人で一緒に行き、見張りを交代で行いながら用をたします。今回ギニアに行った際には、修理されないまま扉のなかった学校のトイレに扉を付け、机も50台新しく作りました。息



トラオレさんと愛用の辞書



おにぎりを持ち笑顔の子どもたち



ギニア・キシドゥグ県の人々

子も現地で見聞きし体験したことで、いろいろ考えるようになりました。
(一真くん) ギニアでは、1日に30分とか1時間しか電気が使えませんでした。水道もほとんど出ないので、水が出る時は近所の人水道に集まって、順番に水を貯めていました。テレビでサッカーがあるときは、近所から40人くらいの人が集まり、テレビを見ていました。学校に行けなくて、朝から働いている友だちもたくさんいました。

地域で一緒に取り組む

(麻衣子さん) ギニアから戻り、日本でももっとギニアのことを知りたい、一緒に考えていきたいと思うようになり、月に1～2回、ワークショップや出前講座などを開催しています。そこでは、子ども達が自分達にできることは何かを考え、やっていきたいことを発表します。アフリカの布を使ったバングルや切り絵アートをみんなで作ることもあります。一緒に手を動かしながら、アフリカのコーヒーを飲みつつ、いろいろな話をします。誰でも楽しく参加できるように心がけています。また、地域の人達で取り組んでいる「こども食堂」でボランティアとして参加し、食事作りのお手伝いや学習支援などを月1回行っています。息子との時間を大事にしたいと思っているので、息子とともに参加し、息子も一緒に手伝い、宿題を一緒にしています。

(トラオレさん) 家族3人で「地球市民学習」(※1)にも参加しています。SDG sについて学び、ギニアの現状を広く伝え、自分達にできることは何かを考え、勉強する機会になっています。息子も積極的に参加し、自分のできること、やりたいことを考えるようになりました。

(一真くん) ギニアに行って感じたことを発表して、メダルをもらいました。(※2)初めてのメダル！



ワークショップにて自分のルーツの国の発表をする一真くん

将来の夢ふくらむ！

(トラオレさん) 日本でがんばろう！と思ったきっかけは、やはり二人の兄が亡くなったことです。男兄弟は私しかいないので、日本で働き、ギニアの家族も支えていこうと考えました。そして、日本とギニアの架け橋となり、日本とギニアをつないでいきたいと思っています。今、新たにネットテレビの仕事も始めました。大使館関係で来日した外国人の家族や仕事で来ている個人を対象にアフリカのテレビ番組が見られるようお手伝いしています。日本人のコミュニティに入らない方も多くいるため、アフリカ現地のニュースだけでも見たいという要望が多くあったからです。もちろん、ケータイやタブレットでも見られるようにしていく予定です。

(麻衣子さん) 以前参加したワークショップで教わった「ドリームマップ」は、自分のやりたいことやなりたい姿を、大きな紙に切り抜きや写真を貼りながら作るものです。私はこのドリームマップを作ったことで、将来の姿が見える化され、いろいろなことが動き出し、夢を少しずつ叶え、家族で様々な活動に取り組んでいます。今また、新しいドリームマップを作成し、キッチンに貼り、毎日眺めています。世界の食料や人権のことなど日本にいてもできること、また世界の全ての子ども達に「できないことはない」「なんでもできる」ということを感じてもらえる活躍の場をと思案しています。そして、家族3人で話し、意見交換をします。息子は子どもならではの大人にはない視点で意見をくれ、夫もいつもアドバイスや力を貸してくれます。二人には本当に感謝しています。

(一真くん) ギニアの町は、ポイ捨てが多いせいでゴミだらけでした。今度ギニアに行ったら、友だち達とゴミ拾いをしたいと思っています。あと、竹とんぼや紙飛行機を持っていき、一緒にしたいです！

(トラオレさん) ギニアには、日本などの諸外国からソーラーや井戸技術が導入されています。しかし、現状では新しいものを持ち込み設置するだけで、故障したら導入元へ送り修理してもらわないといけません。もし、埼玉でスポンサー企業があれば、ソーラーや井戸などをギニアからの研修生もしくは社員として受け入れてもらい、日本で技術を習得し、ギニアへ装置とともに帰国し、継続して管理運営していけたらと考えています。また、日本のリサイクル技術をギニアにも持ち込めたら、捨てているものの多いギニアにとってよいと思います。将来的には、ギニアでも広く日本語を教えていきたいです。現地のラジオでも、30分でも1時間でも日本のことを流したいと思っています。



木村さんご家族とドリームマップ

※1：埼玉県内では活動するNGO団体「世界に目を向けよう～今、私たちにできること～」の活動の一つ。

※2：2017年12月に開催された「世界こどもの日 映像スピーチコンテスト2017」で準優勝。現在、YouTubeでコンテストの様子が配信中。